

WHO世界健康デー2025

Healthy beginnings, hopeful futures
(健やかなはじめ、希望のある未来へ)
2025年4月7日



中村安秀

公益社団法人日本WHO協会 理事長

WHO世界健康デー2025

Healthy beginnings, hopeful futures
(健やかな始まり、希望のある未来へ)

母親と赤ちゃんの健康は、健康な家族と地域社会の基盤であり、私たちすべてに明るい未来を約束します！

WHOは妊産婦と新生児の死亡をなくすための取り組みを強化し、女性の長期的な健康とウェルビーイングを各国政府と保健医療関係者に呼びかけます！

<https://japan-who.or.jp/news-releases/2502-15/>



Healthy beginnings, hopeful futures

(健やかなはじまり、希望のある未来へ)

各国政府と保健医療関係者への呼びかけ

- ・予防可能な妊産婦と新生児の死亡をなくすための取り組みの強化
- ・女性の長期的な健康とウェルビーイングを優先

妊産婦の死亡：世界全体で約30万人

対策：直接的な産科合併症だけでなく、

メンタルヘルス、非感染性疾患（NCDs）、家族計画が重要

新生児の死亡：世界全体で約200万人

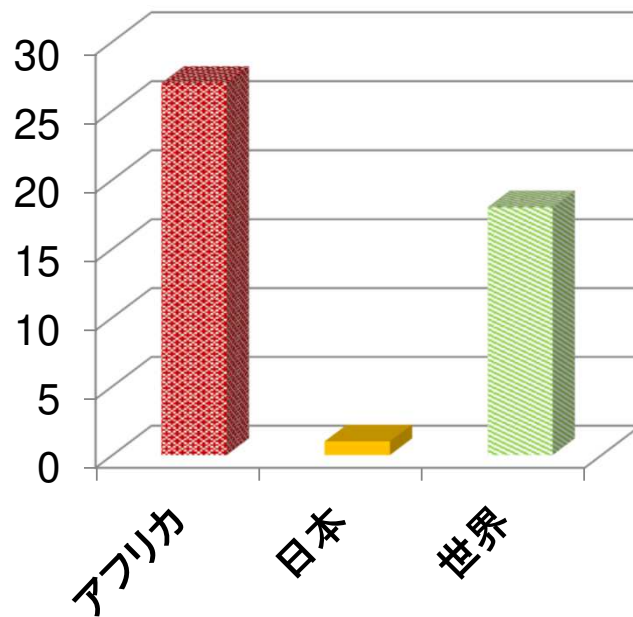
5歳未満の死亡の約47%が出生後28日間に生じている

対策：専門職による出産介助、感染症対策、出生直後のケアが重要

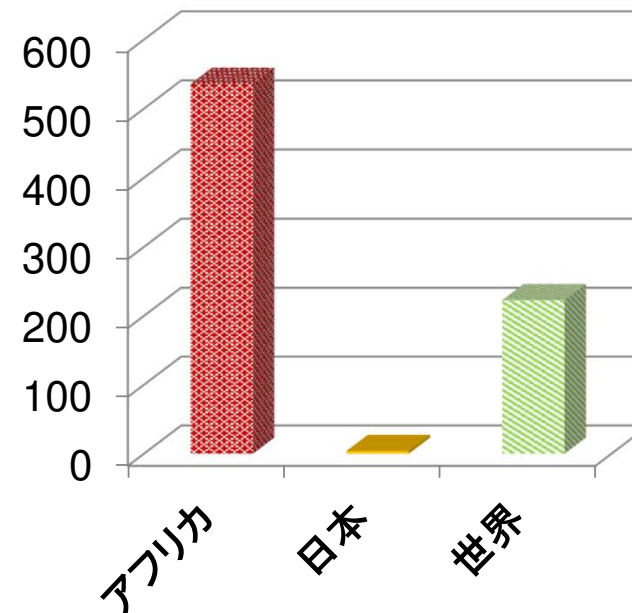
アフリカの母と子の死亡率は高い！

(ユニセフ子ども白書2023)

新生児死亡率
(出生1,000対)



妊産婦死亡率
(出生10万対)



* ここでのアフリカは、サハラ以南のアフリカを指している

母子健康手帳は日本の発明 (1948年:昭和23年)

母子手帳が誇る2つの特長

★母と子の両方の健康記録がひとまとめ

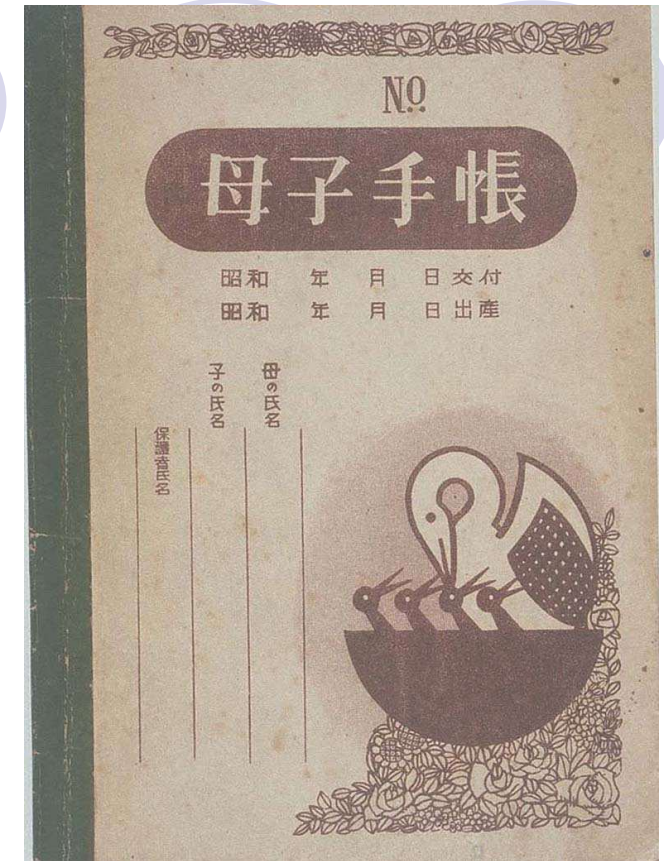
★健康情報や母子の記録が家庭で所有
記録内容:

妊婦健診、赤ちゃんの出生記録、

子どもの発育記録、予防接種記録、

読み物:

妊娠中の健康、育児のしおり、栄養指導など
情報編:公費負担制度、保健機関連絡先など



1948年 日本の厚生省(当時)
が発行した「母子手帳」
世界で最初に母親と子どもの記録
を1冊にまとめた

母と子の命を守るための緊急支援として母子手帳が開発され、配布された

配給の記事

妊産婦、乳幼児に対して特別の配給をしたときは、配給責任者は必ず月、日、品目等を記入して押印して下さい。

年月日	記事	責任者氏名	印
2.27	世帯料の交付		
6.23	世帯料の交付		
7.18	世帯料の交付		
8.11	七帖の交付		
8.19	8月分のサトウ		
9.14	9月分のサトウ		
10.4	10月分のサトウ		
10.27	10月分のサトウ		
11.14	10.11.10分のサトウ		
12.20	12月分のサトウ		
12.21	11月分のサトウ		
2.2	サトウの交付		
2.10	1月分のサトウ		

(15)

年月日	記事	責任者氏名	印
2.14	穀類 34	明彦	
2.14	浮城村のサトウ		
3.22	3月分のサトウ		
5.2	混合砂糖の交付		

(16)

1948年版母子手帳では、妊産婦と乳幼児への加配（特別の配給）のページが30%を占め、当時は貴重品だった砂糖が妊産婦には毎月加配されていた。

第14回母子手帳国際会議

テーマ:「**Safe Beginnings**(人生の安全なスタート)」

フィリピン共和国マニラ(2024年5月)

主催: カラバルソン州保健局、フィリピン大学、国際母子手帳委員会



世界20か国から400名以上が参加。デジタル母子手帳との共存を含め、積極的な情報交換が行われた。

フィリピンでは2018年に「母子の健康と栄養に関する法律」が施行。

人生の安全なスタートを保護者と医療者だけに任せるのではなく、「最初の1,000日」に国や行政が積極的に関与する官民連携が始まっていた。

最初の1,000日

1000日 = (妊娠から出産: 約270日) + (生後から2歳: 約730日)

2歳児

女児

男児

平均体重

11.0kg

11.6kg

平均身長

84.3cm

85.4cm

脳重量

成人の約80%

発達 運動発達: ひとりあるき

精神発達: 言葉の理解 (表出は個人差が大きい)

Developmental Origin of Health and Disease (DOHaD) の概念

胎児期から出生後の低栄養などの環境因子が、成長後の健康や疾病の発症リスクに影響を及ぼす

子どもの虐待: 劣悪な環境が身体的心理的な発達に影響を及ぼす

最初の1000日は、文化や伝統が最も色濃く残っている時期

人びとが培ってきた文化や伝統を尊重する必要がある

「だれひとり取り残さない」母子保健が本当に実現しているのだろうか？

現行の母子手帳の体重発育曲線の見盛りは1kgから始まる。超低出生体重児の母親は既存の母子手帳を見ると、自分の子どもの存在を否定されたような気になるという。

低出生体重児の親の83%が、母子手帳の内容に、「不快な気持ちになったことがある」と回答した(渡邊洋子:2023)。

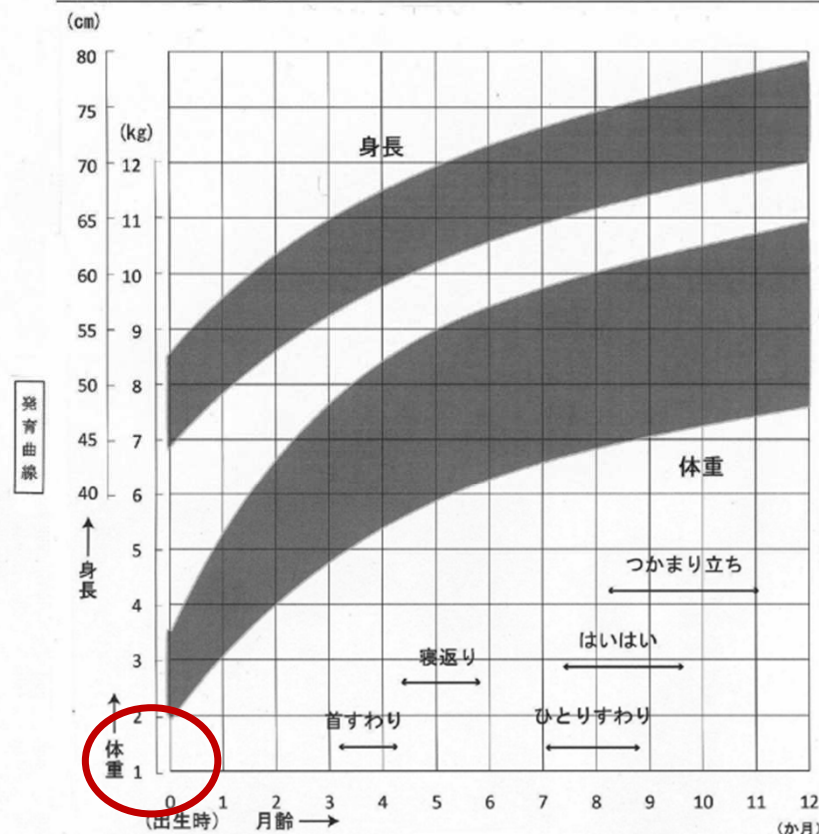
2025年4月1日、発育曲線グラフの見盛りの最小値の見直し

体重：1kg から 0kg

身長：40cm から 20cm

＜お子さんの体重や身長をこのグラフに記入しましょう＞

男の子 乳児身体発育曲線 (平成22年調査)



首すわり、寝返り、ひとりすわり、はいはい、つかまり立ち及びひとり歩きの矢印は、約半数の子どもができるようになる月・年齢から、約9割の子どもができるようになる月・年齢までの目安を表したものです。お子さんができるようになったときを矢印で記入しましょう。

(出典) 厚生労働省平成22年乳幼児身体発育調査報告

画期的なリトルベビーハンドブックの視座 (主に出生時体重1,500g未満の子ども)

2011年 ポコアポコ自主制作(小林さとみさん)

2016年 「第10回母子手帳国際会議」で発表

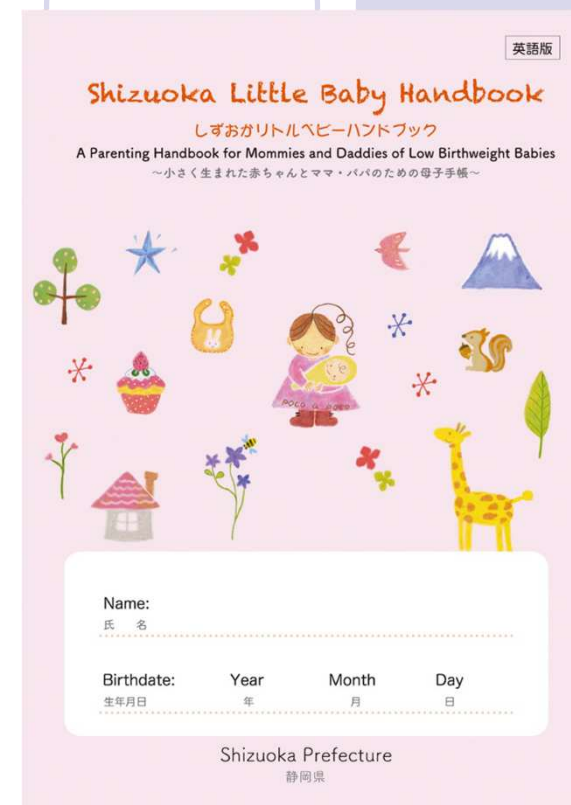
「母子手帳は残酷だった」

(小さく生んだことで自責の念が強いなかで、
母子手帳にわが子の体重を記録できない辛さ)

2018年 静岡県版「リトルベビーハンドブック」

2025年 47都道府県で配布

1. 発達の小さな段階をていねいに記録できる
「頭を一瞬持ち上げる」「寝返りをして手が抜ける」
2. 赤ちゃん和家人の「初めて」を記録できる
「初めて赤ちゃんの声を聞いた日」
「初めて赤ちゃんを抱っこした日」
3. 先輩ママやパパからの温かなメッセージ



当事者の思いと医療者の知恵が詰まった「しずおかリトルベビーハンドブック」(県が開発した英語版など多言語版もダウンロードできる)

いわてリトルベビーハンドブック

<https://www.pref.iwate.jp/kurashikankyoku/kosodate/shien/1063379.html>

先輩ママからのメッセージ

小さく産んでしまい、保育器の中でたくさんの管につながれた姿を見ると、申し訳ない気持ちや不安など複雑な感情で押しつぶされそうになることもありました。

でも、その細く小さなからだで、自分で呼吸ができること、保育器を卒業して待ちに待った抱っこができること、とても大きな壁を何度も乗り越えてくれました。

もうすぐ3歳。笑顔いっぱいとても元気に育ってくれています。生まれてきてくれてありがとう。

盛岡市 28週 560g(2歳)



協力:リトルベビーサークルいわて
「めんこいわらしっこ」

タイの母子手帳の デジタル化



80ページのすべてがカラー印刷。タイで子どもを産むと決意した女性に贈る冊子に、労力と資金は惜しまない。最後のページには、QRコード。ダウンロードすれば、動画で妊婦健診や性感染症の予防などの情報が得られる。

国連と国際協力機構の協力で作られた パレスチナ母子手帳電子版(UNRWA, JICA)



JICA母子保健プロジェクト専門家
として、パレスチナ西岸地区を訪問
(2007年)



難民の携帯保有率
は80%を越していた。
スマホで母子手帳を
みるパレスチナ難民
の母と子(2017年)
UNRWA(国際連合
パレスチナ難民救済
事業機関)提供

母子健康手帳デジタル版 (ひまわりの会)

<https://www.boshi-techo.com/service/medical/>

母子健康手帳といっしょに使ってほしいアプリ

健康の記録

妊娠中の「妊婦健診」や出産後の「健康診査」「予防接種の記録」など、母子健康手帳の記録をデジタル化してクラウドに保管。成長の過程をグラフ化して確認できる。

日記

子どもの成長に関する日々の気づきを日記形式で簡単につづることができる。

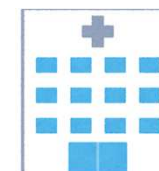
信頼できる情報必要な情報が自治体や病院などから定期的に届く。



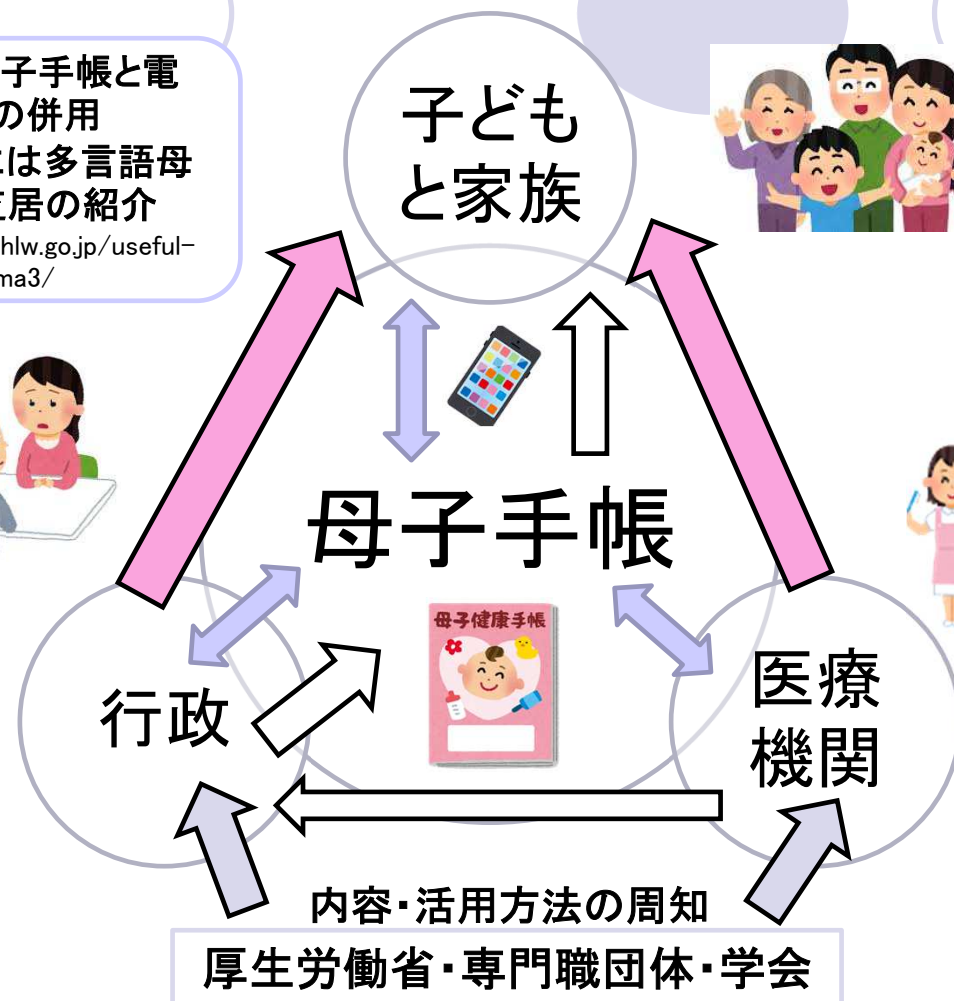
更なる母子健康手帳の活用に向けて

- 紙ベースの母子手帳と電子記録・情報の併用
- 外国人家族には多言語母子手帳や紙芝居の紹介

<https://sukoyaka21.mhlw.go.jp/useful-tools/thema3/>



- 電子記録
- 電子情報
- 使用方法の説明
活用の推進



「母子健康手帳のグローバルな視点を加味した再評価と切れ目のない母子保健サービスに係る研究」により作成
(研究代表者: 中村安秀、分担研究者: 富山紀子、他) 厚生労働科学研究費補助金 (2020-22年) 2023.02.03

母子手帳・国際協力での学び

1. 貧しいなかで創意と工夫があった日本

新しい時代にふさわしい母子手帳にするためには、従前のモデルを大胆に改革する必要がある

2. アナログとデジタルの共生

低出生体重児、障がいをもつ子ども、外国人の子ども、視覚障害の母親など、バリアフリー母子手帳をめざす

3. 「健やかなはじまり」を支援する母子手帳

人生最初の1,000日。妊娠期、新生児期を健やかにすごせるよう、支援するツールとしての母子手帳。



『海をわたった母子手帳』
(中村安秀著:旬報社)
2021年9月

WHO世界健康デー2025

Healthy beginnings, hopeful futures
(健やかなはじまり、希望のある未来へ)

パネル・ディスカッション

「健やかなはじまり、希望のある未来へ」

座長：中村安秀（日本WHO協会）

講師：山本尚子氏

（国際医療福祉大学大学院教授、日本WHO協会理事、元WHO（世界保健機関）事務局長補）

和田和子氏

（大阪母子医療センター副院長、日本小児科学会監事）

